

中期事業計画 2026-2028

1	中期事業計画 2025 実績	・・・・・・・・・・・・・・・・	P1
2	中期事業計画 2026-2028	・・・・・・・・・・・・・・・・	P21



D O U E N

社会福祉法人 恩賜財団愛知県同胞援護会

1 中期事業計画 2025 実績

【法人本部】

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	2025	進捗状況
経営の安定	事業の拡充	障がい者サービス事業（グループホーム等）の拡充	<豊田地区>グループホームの実現可能性について調査、検討 <春日井地区>「ワーカー鷹来」施設内への生活介護事業の併設について、定員、配置計画の検討	施設との協議・検討を継続 既設の作業室や休憩室などを活用した改修計画について基本設計を作成
		在宅サービス充実強化による利用者の確保	サービス内容の充実化について検討	稼働率が低迷している一部のデイサービスについて対策を検討 新たな取組みについて、チラシの配布など広報面でのサポートを実施
		情報発信力の強化	利用者・家族及び広く地域社会への情報発信	SNSによる広報の充実、ホームページ・法人広報誌による情報発信
	利用者サービスの向上	職員の確保	外国人介護士の受入拡大	在留資格「特定技能」制度による外国人介護士の受入
専門学校等との連携強化による学生（日本人・留学生）の安定確保			専門学校等との連携強化について協議	既存校での実施に加え、新たに別の専門学校において奨学金制度を活用
奨学金制度を活用した遠隔地高校生・専門学校生の採用増			他県の高校、専門学校への情報提供	情報提供を実施するも、採用には繋がらず
インターンシップ、オープンカンパニーの受入実施			専用サイト等を活用した受け入れ実施	延べ38名が参加（3/12現在）
ICT・介護ロボットの活用		実用的な介護ロボットの導入	移乗、排泄サポートロボットの計画的導入	「愛知県介護テクノロジー導入支援事業費補助金」を活用し、温冷配膳車（とよた苑）、配膳カート（特養第2とよた苑）を導入 ※今年度は移乗、排泄サポートロボットの導入なし

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	2025	進捗状況
利用者サービスの向上	施設設備の計画的な改修・更新	老朽化対策及びサービス向上のための施設・設備の更新	<保見の里>ショートステイ増設のための施設整備計画の策定、準備	施設用地として隣接地を賃貸借契約により確保するとともに、増改築計画について基本設計を作成
職員の成長・業務の改善	職員の資質向上	役職者の研修プログラムの再構築によるリーダー職員の育成	将来管理職員として期待される役職者を対象としたリーダー人材の育成	管理職級研修、初任管理者基礎研修等の実施
		ICT、ソフトウェアの活用技術の向上	ICT機器等を活用した生産性向上の推進	各施設において「生産性向上委員会」を開催し、業務プロセスの見直しとICTを活用した業務改善に向け、課題の抽出と改善策の検討・試行を実施 介護特化型チャットアプリ「ケアコネ」の導入、職員へのメールアドレス付与拡大を実施
		職種間、事業所間交流の促進	事業所間で課題検討、改善	特養の現場管理者を対象とした情報交換会を開催し、生産性向上への取組み、職員指導の工夫、家族対応の在り方等について意見交換を行い事業所間の連携強化を推進
	職員のモチベーション向上	ソウェルクラブの活用促進	研修等を通じて具体的な活用例を紹介するなど活用を促進	採用時研修において概略説明のほかソウェルクラブの活用例を紹介
		外国人・遠隔地採用者のための職員寮の拡充	随時実施	外国人職員採用時に都度職員寮の借上げを実施

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	2025	進捗状況
職員の成長・業務の改善	業務の改善・効率化	ノーリフティングケアの推進	ノーリフティングケアの定着支援	特養の現場管理者を対象とした情報交換会を開催し、春緑苑におけるノーリフティングケアの実践事例について共有、各施設への横展開を実施
		高齢者、障がい者雇用の促進	シーツ交換、洗濯、清掃などの間接業務を担う高齢者、障がい者雇用の促進	障がい者雇用として、新たに2名の清掃員を採用
		顧問弁護士の配置	各施設へのサポート、研修の実施	利用者家族とのトラブルに関する法律相談など計7件について弁護士対応 施設長を対象とした「カスタマーハラスメントに関する勉強会」を実施
		ICT環境の整備 《新規》	各拠点のネットワーク通信機器、モバイル端末等の整備による業務の効率化	ネットワーク通信速度の向上を目的として、ルーター及びハブの入替え、ならびにVPN（仮想専用通信網）回線プランの変更を実施 PC・iPhone・iPadの更新を順次実施し、利用者向けのゲスト用Wi-Fi環境を新たに整備 セキュリティ強化の一環として、UTM（統合型脅威管理）機器の機種変更及びUPS（無停電電源装置）のバッテリー交換を実施
		年末調整事務の電子化 《新規》	電子化による事務の効率化	試行的に法人本部において電子化を実施

【春緑苑】

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2025	進捗状況
経営の安定	地域との交流・地域貢献の促進	地域との交流・地域貢献の促進	共通	認知症に関する講演会と学習会の実施	<p><包括> 認知症サポーター養成講座等の認知症に関する勉強会実施（2回・延べ41名）、認知症家族交流会実施（2か所開催、5回・延べ32名）、認知症当事者会への参加（7回）</p> <p><用具> 市内ケアマネジメント研究会からの依頼で「認知症老人徘徊感知器」の講習会実施</p>
		近隣企業と連携した『仕事と介護の両立支援に向けたサポート体制の整備』《新規》		施設全体の見学会の実施	玉野地区民生委員（8月）、押沢台地区住民（9月）、老人会、民生委員を招いて全事業所見学会と説明会の実施
		予防フロアを活用した地域交流、地域連携事業の実施		産業ケアマネジャーの養成、仕事と介護の両立支援に向けたセミナーの実施	春日井商工会議所の会員を対象にセミナーを実施（2月）
	情報発信力の強化	居宅連を通じた連携	デイ	交流地域の拡大	<p>近隣の老人クラブとの定期交流会を継続実施（毎月1回）</p> <p>地域のカラオケクラブへのフロア貸出実施</p> <p>地域交流の場にてデイ取組みの「コグニサイズ」の実施（2回）</p>
		居宅連の大会・勉強会、地域活動への参加		<p>居宅連の居宅部会との合同研修会にてデイの活動を紹介</p> <p>春日井介護ハートスクールへの参加</p> <p>地域住民を対象とした施設見学会の実施</p>	

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2025	進捗状況	
利用者サービスの向上	施設設備の計画的な改修・更新	老朽化及び部品一部生産中止に伴う空調設備の改修	特養	該当空調設備の調査及び改修計画立案	2・3階共用部と一部ユニットが同一空調である点を踏まえ、再来年度以降の計画的な実施について検討	
		感染症対策のための空気清浄機の設置		特養1期棟2・3階への導入	未導入	
	職員の確保	実習生の積極的受入		介護実習生受入	介護実習生9名の受入実績（1月現在）	
				社会福祉士実習受入の体制整備（社会福祉士実習指導者講習への参加、マニュアル整備）	資格を保有している職員が異動したため未実施	
				見学会の計画立案 見学会の体制整備（他事業所への協力依頼・介護分野の教育機関へ情報提供）	あいち福祉医療専門学校を対象に実施し、生徒10名以上・教員2名参加（8月）	
	相談窓口の新設	担当地区（高森台・石尾台）内に相談窓口を新設		包括	実施	市民センターにて4回実施（19名） 公式LINEでの配信、市広報や公共施設での周知、地域活動団体へのチラシ配布、他団体広報誌への掲載実施
	施設環境の整備	入居者の憩いの場づくり		グル	ホーム周辺の環境整備 ホーム中庭の憩いの場の整備	外出支援を優先に実施したため整備まで至らず
在宅サービスの質の向上 《新規》	デイサービス充実強化による利用者の確保 《新規》	デイ	認知刺激療法プログラムの検討	一般型は「コグニサイズ」、認知症対応型は「いきいきリハビリ」を実施 認知症予防（認知機能維持）プログラムの試行		

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2025	進捗状況
職員の成長・ 業務の改善	介護負担の軽減及 び生産性向上	ノーリフティングケアの定着	特養	体制強化（ノーリフティングケア専門 研修への参加促進） リフトの増台	床走行式リフト4台増台 ノーリフティングケア基礎研修、一般研修への参加（2名）
		生産性向上に向けた業務改善の取 組		ICT機器等を活用した生産性向上の推 進	ピュアット（ウルトラファインバブル発生機器）を1台購入 し、入浴時間及びその介助にかかる職員数を削減 削減した職員数・時間をユニットレクの時間にあて、QOL 向上に努めた
	職員の資質向上	介護支援専門員資格取得の推進 認知症実践者研修、認知症管理者 研修等の参加	デイ	実施	認知症実践者研修修了者1名 認知症予防としてコグニサイズ指導者研修修了者1名 コグニサイズ実践者研修修了者4名 いきいきリハビリ講習会実施

【第2春緑苑】

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2025	進捗状況
経営の安定化	防災対策の強化	BCP見直し体制の整備	在宅	BCP運用推進委員会活動内容の整理	定期的に委員会を開催 マニュアルの見直し及び災害時必要な物品の整理や購入検討
		地域及び消防署との連携		実施 地域住民、保育園、近隣事業者の参加促進	消防署や地元町内会との合同訓練を計画し、多くの住民参加のもとで実施
	地域との交流・地域貢献の促進	ボランティア受入の見直し	共通	ボランティア受入の検討見直し（入所） 感染関係マニュアル及びボランティア受入マニュアル整合性確認（デイ）	<入所>受入再開について検討したが、感染症の流行が度重なったため、再開見送り <デイ>関係するマニュアルの整合性を確認し、受入を再開
	稼働安定化のための組織体制整備	相談員を中心とした計画的な活動の実施と評価	デイ	会議頻度及び協議内容の見直し	毎月2回の相談員会議において営業計画を更新し、稼働率向上に向けた営業活動を実施した結果、稼働率が向上
	介護の生産性向上に向けた取組み	サービスの質の確保及び負担軽減に資する取組検討体系の構築	特養	ガイドラインに沿った活動内容整備（現状分析及び対策検討）	職員アンケートにより問題の把握に努め、現場にとって効果的な物品の整備 ケアコネ（介護特化型チャットアプリ）の利用を開始
利用者サービスの向上	職員の確保	実習生受入の強化	共通	実習受入体制整備（担当者の育成、環境整備）	実習指導者講習修了者を1名増員し、受入体制の強化により職員を確保
職員の成長・業務の改善	労働環境改善	年次有給休暇の計画的取得推進		付与日数の60%取得	付与日数の60%以上の取得ができた職員は、特養77%、在宅部門36%

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2025	進捗状況
職員の成長・ 業務の改善	労働環境改善	配置に合わせたスペースの確保 (感染等も配慮)	包括	全体レイアウト見直し検討、対策実施	包括と居宅の事務所の入替えを実施し、職場環境を改善
	職員の資質向上	資格取得支援/内外研修参加促進	共通	実施	介護福祉士受験対策講座受講(3名) 希望する外部研修への参加(62名)
		実習生受入		受入体制維持(担当者の育成、環境整備)	実習指導者講習修了者を1名増員し、安定した受入体制の確保と職員の成長に寄与
		専門性の向上と標準化	デイ	事業所間交流での情報収集及び内容の協議検討、内外研修の計画的受講	法人内の他のデイサービスとの連携を継続 計画的に認知症介護実践者研修を受講(1名)
	職員育成とメンタルケア	計画的かつ効率的な面談の実施	共通	実施内容評価と整理	課長を中心に面談を実施し、悩みの早期把握により介護職員の離職減少に寄与
	間接業務の負担軽減	新規課題の抽出		新規課題の抽出検討実施	生産性向上委員会にて課題を抽出し、ペーパーレス化や申し送り方法を改善
	業務の標準化	外国人介護職員の指導・教育体制整備	特養	研修機会の創出 ヒアリング(外国人及び受入ユニット職員)実施による課題抽出	外国人会議を3か月に1回開催し、困り事の把握、必要な支援を実施

【とよた苑・東山デイ】

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2025	進捗状況
経営の安定	感染症対応強化	感染症BCPの実用性向上	共通	見直しと訓練による実用性向上	BCP運用推進委員会にて変更点及び課題について整理し、ゾーニングの見直し実施
	稼働率の維持	地域への情報発信による利用者の確保		多種多様な広報ツール(SNS等含む)を活用し、地域の居宅介護支援事業所やコミュニティなどへの情報発信	<共通>インスタグラムによる投稿の実施 <短期>空室案内も含めたショートステイ通信の作成配布開始 <デイ>事業所機関紙「デイ通信」に加え、改修工事完了のチラシ(本部作成)による営業活動の実施
		近隣企業への情報発信による利用者確保		近隣企業へ「介護離職の防止」をテーマとした介護保険制度及び介護サービス事業所等の説明会を提案	市外の住民が多く行政との連携困難により保留
	地域との交流・地域貢献の促進	ボランティアの受入拡大と交流活動の実施		ボランティア団体を中心とした交流会の計画実施	ボランティアセンターを経由する必要があり保留
		地域との交流・連携 地域との災害時の協力体制構築		連携先の確保、連携方法検討	消防署との合同演習実施(8月:地震想定訓練、9月:救急搬送シミュレーション訓練)
	事業の充実と稼働率向上	LIFE等のデータを活用した質の高い介護の推進		カンファレンスでのデータ活用、実施、評価	各種計画作成担当者へLIFE活用手順の周知 上記をベースとした各種計画の作成
		医療機関との連携体制の構築	特養	実施	「豊田みよしケアネット」にて利用者の状態を報告し、医師とのWeb面談を実施
		サービスの充実、特色作りによる利用者の獲得	とよた苑デイ	リニューアルオープンを切り口にした情報の発信、個別ケアの強化	稼働率の維持 認知症介護実践者研修受講1名
	施設環境の整備 《新規》	利用者の生活環境及び安全性の維持 《新規》	共通	野生動物被害対策検討	木酢液や環境整備による対策実施 頻繁に出現する猪対策として、利用者散歩道に獣害防止柵の設置

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2025	進捗状況
利用者サービスの向上	施設設備の計画的な改修・更新	老朽化した設備（居室内トイレ、ミニキッチン温水器、室内照明）の更新	ケアハウス	設備更新の優先順位を決定し更新計画を策定、順次実施	退所時における更新基準の作成、実施
		感染対策、業務効率を図るための改修計画及び実施	とよた苑デイ	厨房移設後、温冷配膳車の導入	温冷配膳車1台導入（1月）、運用開始
		老朽化・感染予防のための改修	東山デイ	修繕・改修の実施	入浴リフト更新について市と協議調整
	職員の確保	業務、マニュアル見直しによる省力化（ムリ・ムダ・ムラの削減）《新規》	特養	業務、マニュアル見直し	マニュアルリスト作成 上記による整備状況、更新状況の確認及び加除
		継続的な採用活動 登録ヘルパーの確保	ヘルパーステーション	介護福祉士実務者研修等による人材勧誘・採用	豊田市訪問介護職場体験事業にて2名受入
職員の成長・業務の改善	職員の資質向上	チームリーダーとしてメンバーをまとめ、部下の育成指導をする職員を養成し、組織を活性化	共通	個々のレベルに応じたOJT、OFF-JT、SDSを活用した人材育成	指導様式の整備 上記を活用した情報共有による一貫した指導実施
		外国人介護職員に対する育成プログラムの作成	特養	育成プログラムの作成 サポート体制の構築	外国人介護職員担当チューターへのヒアリング実施、課題抽出
		ショートステイ運用の見直し		個別ケアの定着・実践	「個別シート」の活用周知 1フロア化による職員の意識改革
	業務の改善・効率化	生産性向上に向けた業務改善の取組	実施	推進体制強化	インカムの導入検討（R8予算計上）
		ノーリフティングケアによる身体的負担軽減		推進体制強化	ペアによる訓練を実施し、機器使用に伴う不安解消

【第2とよた苑・保見の里】

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2025	進捗状況
経営の安定	地域との交流・地域貢献の促進	自治会及び地域住民との関係づくり	共通	防災対策等の情報共有、地域活動への参加	<第2>大清水自治区との防災協定について調整中 <保見>自治区の消防訓練や救命講習に参加し情報共有交流館祭等に参加し地域住民と交流
		交流スペース等を活用した地域交流、地域連携事業の実施	包括・デイ	地元自治会との意見交換、事業実施	<保見>自治区の集会や委員会等に参加し、意見交換や情報提供などを実施 <デイ>運営推進会議において自治区区長や関係者からの意見聴取
利用者サービスの向上	施設設備の計画的な改修・更新	浴室改修、空調設備・照明器具等の更新	特養・デイ	<第2>居室空調15台入替 <保見>居室空調13台入替	<第2>予定15台の入替完了 <保見>予定13台の入替終了
	事業の充実と稼働率向上	需要に合った機器の選定、機能訓練の充実	デイ	機器の選定、導入	昇降シート車及び高さ調整が可能な処置台（ストレッチャー）を導入
職員の成長・業務の改善	職員の資質向上	資格取得支援、内外研修の受講促進	共通	資格取得に向けた意向確認と、個々の能力に応じた研修の提案、受講を促進	<第2>介護福祉士資格支援講座4名受講 認知症介護実践者研修1名受講 <保見>安全対策担当者養成研修3名受講 介護支援専門員実務研修4名受講・資格取得
		ユニットリーダーの育成	特養	ユニットリーダー研修受講（実地・演習）	<第2>2名受講終了 <保見>1名受講終了
	業務の改善・効率化	業務の効率化、業務負担の軽減	共通	ノーリフティングケア及びICT機器を活用した生産性向上の推進	フルフラットタイプの車椅子を導入 フレックスボードを使用し身体的負担を軽減
	施設設備の計画的な改修・更新	大規模改修に向けた現況確認	第2とよた苑	現状調査と検討 順次着手	改修に備えての箇所選定中
施設増改築計画の検討		保見の里	本部と協議	改築部分の問題点解消のための提案及び増築部分の設備・備品等の選定	

【大府の郷】

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2025	進捗状況
経営の安定	地域との交流・地域貢献の促進	地域のコミュニティ向け介護教室の開催や講師の派遣	共通	介護教室の案内、要望調査、調整、開催 講師の派遣	出張介護教室1回、施設見学会2回、ボランティア養成講座1回（市社協と共催）実施
利用者サービスの向上	介護負担の軽減及び安心安全な入浴提供	入浴設備の見直し	特養	特殊浴槽を1台追加整備、運用	特殊浴槽1台設置完了、運用開始
	介護負担の軽減及び安心安全な移乗	通常の車いすでは対応できない入居者向けの車いすの整備	特養・短期	フルリクライニング車いすを6台追加整備、運用	6台追加整備完了、運用開始 腰痛を理由とする欠勤者の減少
	利用者の安全確保	ベッドからの転落による骨折事故等のリスク軽減		超低床ベッドを6台追加整備、運用	6台追加整備完了、運用開始
職員の成長・業務の改善	利用者の確保	リハビリ機器の拡充	デイ	専門職による運用	専門職による運用
	職員の資質向上	資格取得支援、内外研修への参加推進	共通	推進	介護支援専門員1名合格 介護福祉士6人受験
	労働環境の維持	年次有給休暇の計画的取得促進		付与日数の50%取得	達成率94.7%（R8.1末時点）
	業務の改善・効率化	生産性向上に向けた業務改善の取組	特養	ICT機器等を活用した生産性向上の推進	会議を3回開催、眠りSCAN運用・設定ルールの統一化、定時巡回の回数の見直しを検討
特養・短期			運用	運用	

【若草苑】

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2025	進捗状況
経営の安定	地域との交流・地域貢献の促進	集会室を活用した地域交流の実施	養護	地域交流会としてポッチャ競技+露店企画にて開催（地元の中学校、ボランティア、児童養護施設等への参加依頼）	「親子で楽しもう&保護犬猫譲渡会」を開催し、譲渡会・体験企画・飲食提供を実施（来場者81名）
		地域における公益的な取組みの実現		「買物送迎支援事業」を毎月1回実施	「買物送迎支援事業」を毎月1回実施（利用登録者数7名）
		地域との連携、地域との災害時の協力体制構築		地域関係者との連携、災害時の協力体制を確認できる場を設定	梅坪台中学校ボランティア部による若草苑への清掃作業に参加した地区民生委員11名に対して、災害時の協力について確認
利用者サービスの向上	日中活動の充実	施設内外における活動支援		利用者ニーズに応じた新たな活動の企画、実施	利用者の希望に沿った外出ツアーを実施 ポッチャクラブ創設
	利用者のADL低下防止	個別機能訓練の充実化		個別機能訓練使用機器とプランの充実による転倒事故数の減少	個別機能訓練は対象者24名のうち4名が訓練機器を使用し、その他は日常生活動作を通じて実施（転倒事故はR7.4以降、減少傾向）
職員の成長・業務の改善	職員の資質向上	導入したICT、ソフトウェアの活用技術の向上		施設に合った機器活用マニュアルの充実化	「若草苑 設備・機器マニュアル」を作成
		移乗介助技術の向上	移乗介助技術と機器の勉強会を実施	移乗介助に関する外部研修に参加 介護士勉強会にてスライディングシートの勉強会を実施	
	業務の改善・効率化	間接業務の負担軽減	定期的な生産性向上委員会における課題検討と実施	生産性向上委員会を3か月毎に開催 計画した定期研修を実施（R7.5・9・11）	

【春日苑・ワーカー鷹来】

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2025	進捗状況
経営の安定	事業の拡充	障がい者グループホームの設置	支援施設・ 就労B	グループホームの実現可能性について調査、検討	情報収集は継続的に行うも、国として新規事業参入を抑制する動きも出ているため、検討を一旦中止
	情報発信力の強化	保護者及び地域に対する新たな情報発信ツールの確立		継続、改善	定期的にSNS会議を開催し、投稿内容の質の向上を検討・実施（フォロワー数は少しずつ増加）
	地域との交流・地域貢献の促進	地域との結びつきの強化	支援施設	地域連携推進会議の開催。ボランティア受入れの拡大。地域行事への参加	地域連携推進会議、施設見学を実施 地域行事への参加、利用者外出への支援を実施 新規ボランティア受入れ検討
		地域交流の場とする生活介護棟の活用方法を検討	支援施設・ 支援センター	改修の実施と活用開始。地域への情報発信	生活介護棟の改修を実施し、パブリックスペースとして職員の休憩、地域連携推進会議等の会議の場として活用
	事業の見直し	生活介護との複合施設等の検討	就労B	ワーカー鷹来多機能化について検討	R9.4の生活介護事業開始に向け、本部と共同し事業所の改修案を検討
利用者サービスの向上	職員の確保	施設の認知度アップ	支援施設・ 支援センター	福祉体験等の実施、改善	福祉体験等の募集掲示物を作成し、配布の対象校を選定 坂下小学校に絞り3月26日開催予定
	介護ロボットの活用	新たな介護ロボット等の導入	支援施設	導入、運用（新たな機器の検討は継続）	床走行式リフトを新たに1台導入し、業務の見直しを行い ノーリフティングケアを推進 使用手順の利用者マニュアルを作成

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2025	進捗状況
利用者サービスの向上	日中活動の充実	施設内外における活動への支援	支援施設	運用、実施、見直し	利用者の要望を踏まえた外食や散歩、買い物を目的とした外出、ヘルパーを活用した個人外出の奨励、季節行事の充実を実施
	施設設備の計画的な改修・更新	改修等による利用者の生活利便性向上		工事の検討(照明のLED化)	食堂及び事務所の劣化した一部の照明をLEDに変更 改修工事に向けた見積書案を作成
			就労B	老朽化した設備（外壁、トイレ、照明等）更新の検討	本部と連携し、生活介護改修工事に伴う設備更新の可否について検討
	利用者の確保	利用者送迎の実施による利便性の向上、安定的な利用者確保		就労B	送迎の運用、改善 運転手等の人材確保
職員の成長・業務の改善	業務の改善・効率化	ICT活用・ペーパーレス化の促進	共通	実施、改善内容を検討	委員会・会議をパソコン、プロジェクターを使用し実施 利用者の物品購入手続きを見直し、添付資料の紙の使用を削減
		ICT活用による情報管理の負担軽減	支援センター	情報収集、検討	他事業所との連絡について紙媒体からメールへの移行作業中
			就労B	スマートレジの導入検討（売上や分析、在庫管理の負担軽減）	スマートレジについては条件に適合するものがなく、他のPOSレジなどを検討

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2025	進捗状況
職員の成長・ 業務の改善	職員の資質向上	資格取得保有者の増強	共通	適任者の選定、研修等への参加支援 強度行動障害研修の受講	サービス管理責任者実践研修修了1名、認定特定行為業務 対象者3名、相談支援従事者初任者研修1名、高次脳機能 障害者支援養成研修1名、精神障害者支援技法研修1名受 講
		講師の育成	支援施設・ 支援セン ター	講師の選定と育成 地域や学校等への情報発信の実施	一般職員を対象に施設内勉強会等での講師体験を実施 実習生等に対しSNSによる活動のPRを実施
	他施設等との連携 強化	障がい福祉団体に加入し、情報交 換、将来展望の検討	就労B	職員の資質向上のため研修への参加	就労選択支援に関する勉強会、春日井市就労系事業所連絡 会に参加し情報提供
	職員間交流の向上	休憩スペースの有効活用	支援施設・ 支援セン ター	改修工事实施と運用開始 整備及び備品等の設置検討と選定	改修工事、備品整備を行ない、パブリックスペースとして 運用を開始し、昼食、休憩利用の他、会議室としても活用

【サンホーム豊田】

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2025	進捗状況
経営の安定	事業の拡充	障がい者グループホームの設置	共通	グループホームの実現可能性について調査、検討 地域移行の推進	法人本部と協議・検討を継続
	地域との交流・地域貢献の促進	自治会及び地域住民との関係づくり	生活介護 (入所・通所)	自治会へのアプローチ、自治会行事への参加	野見山地区の児童公民館の清掃活動、シルバー人材に依頼された地域高齢者宅等への除草作業の実施及び自治区行事への参加
利用者サービスの向上	職員の確保	実習生の受け入れ		学校との連携強化	社会福祉士、保育士、教員実習の受け入れ
		新規・中途の雇用（職員配置 2：1→1.5：1）	生活介護（入所）	中高年のパート職員の雇用 実習生に対する雇用促進	社会福祉士の実習生1名を雇用
	ICT・介護ロボットの活用	見守り支援機器の導入 強度行動障害への支援	施設入所	ICT機器等を活用した生産性向上の推進	見守りカメラによる事故防止、事故発生後の検証、KYT訓練の実施 強度行動障害がある利用者の夜間状況のアセスメントに見守りカメラを活用
	施設設備の計画的な改修・更新	老朽化に伴う改修（EV、空調、配管）		検討	R7～R9年度の3か年で照明機器を計画的に更新 EVはR8年度に交換予定
職員の成長・業務の改善	職員の資質向上	資格取得支援（介護福祉士、社会福祉士、サビ管、強度行動障害研修）	共通	資格取得の促進 研修の参加	介護福祉士3名受験、サビ管実務者研修1名、サビ管更新研修1名、強度行動障害実務者研修1名、強度行動障害基礎研修4名受講
		強度行動障害の理解・知識向上 強度行動障害支援の計画シート・手順書に基づく支援の実施	施設入所	研修動画「Lean on Me」の活用 計画・手順書の見直し、実施	新規採用者研修、ミーティング時に虐待・権利擁護研修を実施
	業務の改善・効率化	障がい者雇用の促進	生活介護（入所）	施設内外の環境整備・清掃等の間接業務を担う障害者雇用の促進	清掃員の雇用

【さくら保育園】

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2025	進捗状況
経営の安定	情報発信力の強化	入園児の安定確保 一時保育利用者の新規利用拡大およびリピート率の向上	保育	園見学者の積極的な受け入れ パンフレット、ホームページの活用 一時保育利用の登録促進	春日井市保育課や子育て支援センターにパンフレットを設置するとともに、Instagramを定期的に更新し、保育園の周知・PRを実施 一時保育等受け入れにより入園児を確保
	地域との交流・地域貢献の促進	地域における公益的な取組みの実施		出川小学校の教員との意見交換の実施 年長児の出川小学校訪問の実施	出川小学校など近隣の小学校との意見交換を実施 年長組の出川小学校への訪問、運動会の見学を実施
利用者サービスの向上	職員の確保	保育士養成校との連携強化		保育補助者の積極的な採用 就職フェアへの参加	保育補助1人を採用したが、就職には至らず 就職フェアに参加（年7回）
	保護者の負担軽減	手ぶら登園導入の検討		導入に向けた業者の選定及び保育体制の見直し	手ぶら登園について検討した結果、保護者の金銭的負担や不平等が生じるため導入中止
職員の成長・業務の改善	ワークライフバランスの推進	業務の見直し、簡素化の検討		効率化が可能な業務の洗い出し 年次有給休暇の取得促進	タブレットの増台により業務効率が向上し、時間外勤務が減少 年次休暇は偏りなく取得
	職員の資質向上	経験年数に応じた研修参加の促進		個別目標に向けた研修参加の促進	研修計画に沿って職員全員が研修に参加

【さくら第2保育園】

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2025	進捗状況
経営の安定	事業（保育の量）の継続	恒常的な園児確保	保育	園の特色をホームページ、SNSで発信	発信頻度を年2回から月1回ペースに引き上げ（現在はペースダウン）
	地域との交流・地域貢献の促進	地域における公益的な取組みの実施		民生委員児童委員協議会及び自治会との意見交換、空き部屋の有効活用の実施	検討中
		地域行事への積極的参加		盆踊り大会に加えグラウンドゴルフ大会等地域行事への参加計画	地域行事への参加計画立案中
	防災対策の強化	非常災害時における体制整備の強化、徹底		地域との合同訓練実施	検討中
利用者サービスの向上	職員の確保	養成校への就職促進		ボランティア、実習生の積極的な受入 保育補助としての学生アルバイトの受入	保育実習1名、県社協の職場体験1名を受入
	配置基準の拡大	人員配置の上乗せ基準実施による安全保育の確保		私立園長会を通じた春日井市への要望提出	調整中
職員の成長・業務の改善	職員の資質向上	キャリアアップ研修参加によるリーダー職員の育成		経験年数に応じた研修に参加	経験年数に応じた参加計画を立て、市役所・法人等が実施する研修に参加
		他園との交流促進		実施	他園の公開保育に3名の保育士が参加し、他の保育士にも情報共有
	業務の改善・効率化	間接業務の負担軽減		見直し、改善	事務作業の時間内完了について、朝礼・会議等を通じ職員に指示

2 中期事業計画 2026-2028

【法人本部】

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	2026	2027	2028
経営の安定	事業の拡充	障がい者サービス事業の拡充	利用者の高齢化・重度化に対応した施設整備、事業の検討	→	→
			「ワーカー鷹来」施設内への生活介護事業の併設に向けた施設整備の実施	生活介護事業の開始（4月）、運用	
	情報発信力の強化	利用者・家族及び広く地域社会への情報発信	採用・人材確保と連動した情報発信の強化のため SNS・ホームページ・法人広報誌による発信情報内容の見直し、実施	→	→
利用者サービスの向上	職員の確保	外国人介護士の受入拡大	在留資格「特定技能」制度による外国人介護士の受入	→	→
		専門学校等との連携強化による学生（日本人・留学生）の安定確保	専門学校等との連携強化について協議	→	→
		奨学金制度を活用した遠隔地高校生・専門学校生の採用増	他県の高校、専門学校への情報提供	→	→
		インターンシップ、オープンカンパニーの受入実施	専用サイト等を活用した受け入れ実施	→	→
	ICT・介護ロボットの活用	実用的な介護ロボット等の導入	移乗、排泄サポートロボット等の計画的導入	→	→
	施設設備の計画的な改修・更新	老朽化対策及びサービス向上のための施設・設備の更新	施設改修のための現状調査、中長期改修計画の作成	計画に基づき改修実施	→
	在宅サービスの質の向上	在宅サービス充実強化による利用者の確保	「保見の里」ショートステイ事業の新設のため、施設整備の実施	ショートステイ事業の開始（7月） 地域交流棟の竣工（10月）	
認知症対応型デイサービス等のサービス内容見直し支援			特色あるサービスの展開	→	

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	2026	2027	2028
職員の成長・業務の改善	職員の資質向上	役職者の研修プログラムの再構築によるリーダー職員の育成	将来管理職員として期待される役職者を対象としたリーダー人材の育成	→	→
		ICT、ソフトウェアの活用技術の向上	ICT機器等を活用した生産性向上の推進	→	→
	職員のモチベーション向上	ソウェルクラブの活用促進	研修等を通じて具体的な活用例を紹介するなど活用を促進	→	→
		外国人・遠隔地採用者のための職員寮の拡充	随時実施	→	→
	業務の改善・効率化	ノーリフティングケアの推進	ノーリフティングケアの定着支援	→	→
		高齢者、障がい者雇用の促進	シーツ交換、洗濯、清掃などの間接業務を担う高齢者、障がい者雇用の促進	→	→
	業務の改善・効率化	ICT環境の整備 《新規》	各拠点のネットワーク通信機器、モバイル端末等の整備 情報セキュリティ対策の強化 業務効率化ツールの導入（会議報告書作成支援ツール、職員間・職員-家族間コミュニケーションツール等）	→	→
			年末調整事務の電子化 《新規》	全拠点において電子化の実施	→

【春緑苑】

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2026	2027	2028
経営の安定	地域との交流・地域貢献の促進	施設機能の地域への還元	共通	地域住民を対象とした専門職（通所）によるミニセミナー及び認知症予防プログラムの実施	→	→
				施設全体の見学会の実施	→	→
		近隣企業と連携した『仕事と介護の両立支援に向けたサポート体制の整備』《新規》		産業ケアマネージャーの養成、近隣企業へセミナーの実施	近隣企業の従業員に対する仕事と介護の両立のためのサポート体制の整備	→
		予防フロアを活用した地域交流、地域連携事業の実施		交流地域の拡大	坂下町、神屋町等（坂下包括区域）に拡大	高森台、石尾台等（高森台包括区域）に拡大
	情報発信力の強化	居宅連を通じた連携	デイ	居宅連の大会・勉強会、地域活動への参加	→	→
	稼働率の維持・向上《新規》	経営判断を即時にサポートするKPI（重要業績評価指標）管理体制の構築《新規》	共通	毎月会議で達成度の確認・原因分析・改善策を検討、KPIツリーの細分化	→	→
利用者サービスの向上	施設設備の計画的な改修・更新	老朽化及び部品一部生産中止に伴う空調設備の改修	特養	該当空調設備の調査	改修計画立案	改修実施
	職員の確保	実習生の積極的受入		介護実習生受入強化（教育機関への営業、契約件数の増加） 介護福祉士実習指導者講習会へ1名以上参加	→	→
		福祉施設見学会ツアーの導入実施		見学会の定期開催 体制強化（HPへの掲載、教育機関との連携強化）	→	→
		ヘルパーの確保《新規》		ヘルパーステーション	近隣大学、介護職職員初任者研修及び介護福祉士実務者研修受講者への募集アプローチ	→

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2026	2027	2028
利用者サービスの向上	相談窓口の新設	担当地区（高森台・石尾台）内に相談窓口の継続	包括	市民センターにて3か月に1度の相談窓口の開催継続 公式LINE配信、市広報や公共施設での周知、地域活動団体へのチラシ配布、他団体広報誌への掲載継続	→	→
	社会参加	利用者ニーズにあった外出支援等地域とのつながり推進	グル	利用者ニーズの把握と外出実施地域活動等への参加	→	→
	在宅サービスの質の向上《新規》	デイサービスの付加価値向上によるサービスの充実強化《新規》	デイ	ボランティア活用によるレクリエーションの質向上 コグニサイズ・いきいきリハビリによる、認知症予防（認知機能維持）の定着化 重度認知症対応プログラムの導入検討	外部ボランティアの活用と認知機能向上プログラムの標準化により、認知症予防支援（認知機能維持）及び重度認知症対応サービスの質の向上	→
		認知症予防等の知識、技術の向上		コグニサイズ指導者研修受講1名 コグニサイズ実践者研修4名 認知症介護実践者研修1名 その他認知症研修等参加	コグニサイズ指導者研修受講1名 コグニサイズ実践者研修2名 認知症介護実践者研修1名 その他認知症研修等参加	コグニサイズ指導者研修受講1名 コグニサイズ実践者研修2名 認知症介護実践者研修1名 その他認知症研修等参加
職員の成長・業務の改善	介護負担の軽減及び生産性向上	ノーリフティングケアの定着	特養	入浴用スリングシートの導入 介護士勉強会にノーリフティングケアを追加	ノーリフティングポリシー宣言	
		生産性向上に向けた業務改善の取組		ICT機器等を活用した生産性向上の推進 SRS-18（心理的ストレス反応測定尺度）による職員のストレス測定を実施	→	→

【第2春緑苑】

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2026	2027	2028
経営の安定化	防災対策の強化	BCP見直し体制の整備	共通	拠点内各BCPの実用性の見直し	標準化	→
		地域及び消防署との連携	共通	地域住民の参加促進と実施	定着化	→
	地域との交流・地域貢献の促進	ボランティア受入の見直し		特養・デイ	ボランティア受入検討継続（特養） 要望の整理・定着化促進（デイ）	→
		介護の生産性向上に向けた取組み	サービスの質の確保及び負担軽減に資する取組検討体系の構築	特養・デイ	腰痛対策実施、他施設の状況・情報収集、設備投資についての協議検討	→
	職員の確保《新規》	地域社会への情報発信《新規》	共通	人材確保につながるSNSの発信に係る仕組みづくりと実行	強化	標準化
	施設設備の更新《新規》	蛍光灯からLEDへの切替《新規》		LED化への更新検討・準備	LED化への段階的切替	LED化への切替終了
利用者サービスの向上	SNSの活用《新規》	利用者の様子のSNS発信力強化《新規》	特養・デイ	インスタを活用した情報発信頻度の向上の取組みの検討・実施	強化	標準化
	施設設備の更新《新規》	入浴設備機器の更新《新規》		入浴設備の老朽化による更新計画の検討と一部実施	入浴設備更新の段階的実施	→

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2026	2027	2028
職員の成長・ 業務の改善	労働環境改善	年次有給休暇の計画的取得推進	共通	付与日数の65%取得推進	→	標準化
	職員の資質向上	資格取得支援/内外研修参加促進		対象者への情報提供と研修実施	→	→
		介護職員の専門性向上《新規》	特養	誤嚥性肺炎防止の為の口腔ケア勉強会企画・実施	口腔ケアサポート体制の構築	→
	職員育成とメンタルケア	計画的かつ効率的な面談の実施	共通	標準化		
	間接業務の負担軽減	新規課題の抽出、生成AIの活用		課題解消対策の立案と実施、生成AIの活用を検討	→	→
	業務の効率化	ノーリフティングケアの推進	特養・デイ	ノーリフティングケアの勉強会実施、機器の導入検討	→	→
	業務の標準化	外国人介護職員の指導・教育体制整備	特養	課題解消対策の立案・マニュアル作り	外国人サポート体制の標準化	

【とよた苑・東山デイ】

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2026	2027	2028	
経営の安定	感染症対応強化	感染症BCPの実用性向上	共通	情報収集 感染対策委員会との整合性確保 外部研修への参加	→	→	
	稼働率の維持・向上	地域への情報発信による利用者の確保		実施	→	→	
		予算進捗管理及び周知《新規》		全体会議での周知 連絡会、相談員会議、課長会議での課題整理及び対策立案	→	→	
	地域との交流・地域貢献の促進	ボランティアの受入拡大と交流活動の実施		ボランティア及び地域交流の在り方検討実施	関係者へのヒアリング実施 現況調査及び実施計画立案		計画実施
		地域との交流・連携 地域との災害時の協力体制構築		自治区への訓練等参加要請	→	→	
	事業の充実と稼働率向上	LIFE等のデータを活用した質の高い介護の推進		実施	→	→	
		医療機関との連携体制の構築	特養	協議会による加算算定協議の推進	→	→	
		サービスの充実、特色作りによる利用者の獲得	とよた苑デイ	認知症実践者研修受講（1名） 年次目標の設定推進	→	→	
東山デイ	自治区サロンや老人会の参加による周知広報		→	→			
利用者サービスの向上	施設設備の計画的な改修・更新	老朽化した設備（居室内トイレ、ミニキッチン温水器、室内照明）の更新	ケアハウス	退所時を含めた基準の検討	→	→	
		感染対策、業務効率を図るための改修計画及び実施	とよた苑デイ	温冷配膳車の効率的な活用 上記検討委員会の開催	→	→	
		老朽化・感染予防のための改修	東山デイ	修繕・改修計画立案	→	→	

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2026	2027	2028
利用者サービスの向上	職員の確保	マニュアル見直しによる業務の標準化・省力化推進	特養	マニュアルリスト運用方法整備及び周知 マニュアルに基づく研修の計画的実施	→	→
		継続的な採用活動 登録ヘルパーの確保	ヘルパーステーション	介護福祉士実務者研修等を通じた人材勧誘・採用	→	→
職員の成長・業務の改善	職員の資質向上	チームリーダー養成による組織の活性化	共通	個々のレベルに応じたOJT・OFF-JTの実施、フィードバック面談等を活用した人材育成 指導記録の整理/傾向分析 介護技術評価方法の検討	→	→
		外国人介護職員に対する育成プログラムの作成		育成プログラムの作成 サポート体制の構築	→	→
	業務の改善・効率化	年次有給休暇の計画的取得推進	特養	付与日数の55%、達成者割合90%以上を目標に取得推進	付与日数の60%取得、達成者割合90%以上	付与日数の65%取得、達成者割合90%以上
		生産性向上に向けた業務改善の取組		インカム運用の指針整備 インカム導入	→	→
ノーリフティングケアによる身体的負担軽減	ノーリフティングケアの定着	→		→		

【第2とよた苑・保見の里】

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2026	2027	2028
経営の安定	地域との交流・地域貢献の促進	自治会及び地域住民との関係づくり	共通	防災対策等の情報共有、地域活動への参加	→	→
		交流スペース等を活用した地域交流、地域連携事業の実施	包括・デイ	地元自治会との意見交換、事業実施	→	→
利用者サービスの向上	施設設備の計画的な改修・更新	浴室改修、空調設備・照明器具等の更新	特養・デイ	<第2>居室空調15台入替、業務用エアコン更新、非常灯更新、機械浴入替、温冷カート入替、デイ浴室改修案の検討 <保見>マットレス等寝具類の更新	<第2>居室空調15台入替 <保見>照明器具、非常灯等の更新。	<第2>居室空調15台入替
				事業の充実と稼働率向上		
職員の成長・業務の改善	職員の資質向上	資格取得支援、内外研修の受講促進	共通	資格取得に向けた意向確認及び個々の能力に応じた研修の提案、受講の促進	→	→
		ユニットリーダーの育成	特養	ユニットリーダー研修受講（実地・演習）促進	→	→
	業務の改善・効率化	業務の効率化、業務負担の軽減	共通	ノーリフティングケア及びICT機器を活用した生産性向上の推進	→	→
	施設設備の計画的な改修・更新	大規模改修に向けた現況確認	第2とよた苑	現状調査と検討 順次着手	→	大規模改修
		施設増改築計画の検討	保見の里	施設整備の実施	ショートステイ事業の開始 地域交流棟の竣工	

【大府の郷】

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2026	2027	2028
経営の安定	地域との交流・地域貢献の促進	地域のコミュニティ向け介護教室の開催や講師の派遣	共通	介護教室の開催、講師の派遣、施設見学会の開催、地域交流スペースの開放	→	→
		大府市「高齢者等移動支援事業」(買い物支援)の実施《新規》		市・社協・地域住民と調整のうえ事業計画を策定し実施	事業計画の見直し	→
利用者サービスの向上	適正な介護用品	褥瘡予防器具の拡充	特養・短期	老朽化により器具と数量の見直しを行い段階的に整備	器具の評価を行い補充	→
	施設設備の計画的な更新	照明のLED化	共通	2階フロアの蛍光灯照明をLEDに更新	3階フロアの蛍光灯照明をLEDに更新	4階フロアの蛍光灯照明をLEDに更新
職員の成長・業務の改善	職員の資質向上	外国人職員に対するサポート体制の強化《新規》	特養	教育プログラムの構築	教育プログラムの見直し	→
		資格取得支援、内外研修への参加推進	共通	推進	→	→
	労働環境の維持	年次有給休暇の計画的取得促進		付与日数の50%取得促進	付与日数の55%取得促進	付与日数の60%取得促進
	業務の改善・効率化	生産性向上に向けた業務改善の取組 ノーリフティングケアの推進《新規》	特養	ICT機器等を活用した生産性向上の推進	→	→
介護機器適正運用のルール化				ルールの見直し	→	

【若草苑】

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2026	2027	2028
経営の安定	地域との交流・地域貢献の促進	集会室の活用による地域交流の実施	養護	ボッチャ競技等を通じた地域交流の実施（地元の中学校・ボランティア・児童養護施設等との交流）	→	→
		地域における公益的な取組みの実現		「買物送迎支援事業」を毎月1回実施	→	→
		地域との連携、地域との災害時の協力体制構築		地域関係者との連携、災害時の協力体制を確認できる場を設定	→	→
利用者サービスの向上	日中活動の充実	施設内外における活動支援		利用者ニーズに応じた新たな活動の企画、実施	→	→
	利用者のADL低下防止	個別機能訓練の充実化		日常動作やトレーニング機器を活用し目標達成のために無理なく継続できるプランの作成及び実施による転倒事故数の減少	→	→
職員の成長・業務の改善	職員の資質向上	導入したICT、ソフトウェアの活用技術の向上		施設に合った機器活用マニュアルの充実化	→	→
		介護技術、認知症に対する理解及び対応力の向上		介護技術、介護機器、認知症に関する研修への参加の促進及び勉強会の実施	→	→
	業務の改善・効率化	間接業務の負担軽減	定期的な生産性向上委員会における課題検討及び実施	→	→	

【春日苑・ワーカー鷹来】

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2026	2027	2028
経営の安定	事業の拡充	障がい者グループホームの設置	支援施設・ 就労B	情報収集		
	情報発信力の強化	保護者及び地域に対する新たな情報発信ツールの確立		継続、改善	→	→
	地域との交流・地域貢献の促進	地域との結びつきの強化	支援施設	新規ボランティア受入れ、地域連携推進会議の開催、地域行事への参加、福祉体験の実施	→	→
		地域交流の場とする生活介護棟の活用方法を検討	支援施設・ 支援センター	運用方法の検討、設備の見直し 地域への宣伝方法を検討、実施	→	→
	事業の見直し	生活介護との複合施設等の検討	就労B	事業所の改修工事の実施	生活介護事業の開始	運用
		バン移動販売車の検討《新規》		運用方法・車両の検討、導入	運用（販売箇所拡大）	→
利用者サービスの向上	職員の確保	施設の認知度アップ	支援施設・ 支援センター	地域への施設情報発信及び福祉体験等の受入れ拡大	継続、検討	→
	介護ロボットの活用	新たな介護ロボット等の導入	支援施設	既存機器の点検及び入替え、新規機器の検討	→	→
			就労B	アシストスーツの導入、運用	継続、検討	→

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2026	2027	2028
利用者サービスの向上	日中活動の充実	施設内外における活動への支援		利用者活動への支援、見直しの検討	継続、検討	→
	施設設備の計画的な改修・更新	改修等による利用者の生活利便性向上	支援施設	施設内LED照明の改修工事の実施(2026-2028)	→	→
			就労B	改修工事の実施と設備更新	運用	→
	利用者の確保	利用者送迎の実施による利便性の向上、安定的な利用者確保	就労B	運用、改善 運転手等の人材確保	→	→
職員の成長・業務の改善	業務の改善・効率化	ICT活用・ペーパーレス化の促進	共通	実施、改善内容の検討	→	→
		ICT活用による情報管理の負担軽減	支援センター	情報収集、検討	→	→
			就労B	POSレジの検討	導入、運用	→
	職員の資質向上	資格取得保有者の増強	共通	適任者の選定、研修等への参加支援 強度行動障害研修等の受講促進	→	→
		講師の育成	支援施設・支援センター	講師の育成 地域や学校等での福祉体験等の検討・実施	→	→
	他施設等との連携強化	障がい福祉団体に加入し、情報交換、将来展望の検討	就労B	研修参加による職員の資質向上	→	→
	職員間交流の向上	休憩スペースの有効活用	支援施設・支援センター	運用及び設備の見直し	→	→

【サンホーム豊田】

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2026	2027	2028
経営の安定	事業の拡充	障がい者グループホームの設置	共通	検討結果に基づき対応	→	→
	地域との交流・地域貢献の促進	自治会及び地域住民との関係づくり		自治会へのアプローチ、自治会行事への参加	→	→
	稼働率の維持・向上《新規》	男性職員の雇用（人員配置2:1 新規加算取得）《新規》	生活介護（通所）	男性職員雇用による特別支援学校へ対応強化PR	→	→
利用者サービスの向上	職員の確保	実習生の受入れ	共通	学校との連携強化	→	→
		新規・中途職員の増員（職員配置1.5：1継続、提供時間7～8h）	生活介護（入所）	中高年のパート職員の雇用 実習生に対する雇用促進	→	→
	ICT・介護ロボットの活用	見守り支援機器の導入 強度行動障害への支援	施設入所	ICT機器等を活用した生産性向上の推進	→	→
	施設設備の計画的な改修・更新	老朽化に伴う改修（EV、空調、配管）		検討・実施	→	→
	農福連携《新規》	作物の選定、計画的な作付け《新規》	共通	畑を区切り計画的な作付け 販路の確保による重度者への工賃増配	→	→
職員の成長・業務の改善	職員の資質向上	資格取得支援（介護福祉士、社会福祉士、サビ管、強度行動障害研修）	共通	資格取得の促進 研修の参加促進	→	→
		強度行動障害の理解・知識向上 強度行動障害支援の計画シート・手順書に基づく支援の実施	施設入所	計画・手順書の見直し、実施 強度行動障害支援者養成研修（基礎・実践）の受講促進 外部コンサルタントによるスーパービジョン（年4回）の実施	→	→
	業務の改善・効率化	業務の見直し、課題の抽出	共通	生産性生向上委員会にて課題の洗い出し、対策立案・実施	→	→

【さくら保育園】

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2026	2027	2028
経営の安定	情報発信力の強化	入園児の安定確保 一時保育利用者の新規利用拡大およびリピート率の向上	保育	園見学者の積極的な受け入れ パンフレット、ホームページの活用 一時保育利用の登録促進	→	→
	地域との交流・地域貢献の促進	地域における公益的な取組みの実施		近隣小学校の教員との意見交換の実施 年長児の出川小学校訪問の実施 堰堤開放の実施	親子教室の開催を検討 市やNPO法人が主催の園児や保護者向け講座の受講の検討	実施
利用者サービスの向上	職員の確保	保育士養成校との連携強化		保育補助者の積極的な採用 就職フェアへの参加	→	→
	保護者の負担軽減	午睡用コットの導入		検討	午睡用コット0歳児～3歳児導入	運用
職員の成長・業務の改善	ワークライフバランスの推進	業務の見直し、簡素化の検討、 人員配置の見直し		効率化が可能な業務の洗い出し 年次有給休暇の取得促進	ICT機器（タブレット）増台 基準以上の人員配置の実施	→
	職員の資質向上	経験年数に応じた研修参加の促進		個別目標に向けた研修参加の促進	→	→

【さくら第2保育園】

運営目標	必要な取組み	アクションプラン	対象事業	2026	2027	2028
経営の安定	事業（保育の量）の継続	恒常的な園児確保	保育	園の特色のホームページ、SNSによる発信強化	→	→
	地域との交流・地域貢献の促進	地域における公益的な取組みの実施		民生委員児童委員協議会及び自治会との意見交換、空き部屋の有効活用の実施	計画、実施	→
		地域行事への積極的参加		盆踊り大会及びグラウンドゴルフ大会等地域行事への参加検討	計画、実施	→
		世代間交流の継続参加		春緑苑入居者との交流会の実施（開園からの継続）	→	→
	防災対策の強化	非常災害時における体制整備の強化、徹底		地域との合同訓練実施	計画、実施	→
利用者サービスの向上	職員の確保	養成校への就職促進	ボランティア、実習生の積極的な受入 保育補助としての学生アルバイトの受入	→	→	
	配置基準の拡大	人員配置の上乗せ基準実施による安全保育の確保	私立園長会を通じ春日井市への要望提出	→	→	
職員の成長・業務の改善	職員の資質向上	キャリアアップ研修参加によるリーダー職員の育成	経験年数に応じた研修への参加促進	→	→	
		他園との交流促進	実施	→	→	
	業務の改善・効率化	間接業務の負担軽減	見直し、改善	→	→	